

東青・下北地区部会

検討課題	具体的な検討項目	意見報告
<p>1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方 (第1専門委員会)</p>	<p>1学年当たりの適正な学級数</p>	<p>・普通科の進学校と、そうでない学校を分ける理由は何か。進学を目的とする学校とどう区別をするか。                  ・市部の普通科(進学校)は6～7学級という数字になっているが、進学校についてはカリキュラムを組む上で奇数は旨く行かないので偶数が望ましい。6～8学級であれば問題はない。                  ・どうしてもやむをえない学校のみ特色を持たせて存続させると記載されている部分について、地区の方は賛同するという意見が多いような気がする。その際に、どうしても無理だというような状況になった時には、交通事情などを考慮し、通学に配慮した支援策を、県としては無理だというのであれば、県がリーダーシップを取って、各市町村、支援団体等に働きかける事が必要ではないか。</p>
	<p>普通科と職業学科と総合学科の目指す役割</p>	<p>・保護者、生徒から圧倒的に支持される普通高校を増やすという事に関しては、全体的にそうであるとは認めるが、工業高校ではものづくりなど工業センスを磨いて大学に進学する生徒もいるので、全てが普通科志向ばかりではない。他の職業学科までトータルとして言い切れるものではない。                  ・普通、職業、総合学科の募集割合については、単純に割合を増やすとか減らすとかいう問題ではない。その割合はあまりこだわるべきではない。</p>
	<p>適正な学校規模を実現するための方策</p>	<p>・適正な学校規模・配置を実現するための方策について、統廃合以外の選択肢はないというところでは専門委員会と同じ意見である。                  ・全体的に統廃合やむ無し、郡部を支持しようという声がありながらも、統廃合やむなしというのが大方の意見である。</p>
<p>2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方 (第2専門委員会)</p>	<p>学科・コース等の今後の方向性</p>	<p>・普通科に併設されている専門学科の件に関しては、スポーツ科学科以外は機能していないという声がある。                  ・スポーツ科学科についてはもう少し長い目で様子を見る必要がある。                  ・普通科に併設されている専門学科は、努力して成功しているという学科の話もあるが、全体的には専門学科の学習に集中しなければいけない事から大学進学面ではハンデとなる危険性がある。専門委員会の意見と一致し、普通科に併設されている学科は見直した方がよい。                  ・専門高校の細分化、専門化した学科を、基礎・基本重視の観点から統合、再編する事が必要であるという意見については、やはり工業高校経験の委員から同じ意見があった。工業高校などの施設・設備の充実を図るために、既存の学科を細分化し、新しい学科を設置する必要があったが、その役目はもう終わったのではないかと。元に戻すのは良い事で、専門委員会の意見と同じである。                  ・新しい学科等の設置の必要性については、大方の委員は新しい学科の必要性は認めていませんが、ただ地域性を持った新しい学科の設置という事については、下北に原子力関連学科について話があった。事務局から説明があった要望書と一緒に、地元就職のためにという事で考えられないかという意見である。                  ・括り募集の所について、本地区部会では、専門高校の小学科の中身を考えると括り募集ができる学校と、できにくい学校があり、同じ専門高校でも、そういう学校の違いがあるのではないかと。この後の専門委員会の話し合いの推移を見守りたいという意見が出ていました。</p>

西北・中南地区部会

検討課題	具体的な検討項目	意見報告
<p>1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方 (第1専門委員会)</p>	<p>1学年当たりの適正な学級数</p>	<p>・市部、町村部という分類はあくまでも旧行政区(8市だった頃の行政区)。これからまた市町村合併があるかもしれませんが、そうなると市部と言ってもどこまでなのかという事になってしまいます。                      ・学級数について、教育水準を維持・向上するためには、最低限4学級以上は必要。地域の実情を踏まえての話という事から、どうしてもという場合はそれ以下もやむを得ないというニュアンスであった。                      ・大学進学という事を考えると、普通科へ進学したいという中学生が多いという事から、6学級以上は必要。                      ・募集については、あくまでも現状の東青・西北・中南・上北・下北・三八の6地区を念頭に置いて、市部、町村部の学校について考えて行くことが必要である。学級数についても、その中である程度考えて行くのが良い。</p>
	<p>普通科と職業学科と総合学科の目指す役割</p>	<p>・普通科と職業学科と総合学科の在り方について、普通科の希望者が非常に多いという事から、普通科を増やして行く方向がいいだろう。ただし、専門高校のニーズもあるという事を考えると、学級数は少なくなるでだろうが、専門高校をなくするという事ではない。                      ・普通科はつぶしがきくという意見の委員もあった。普通科志向については、生徒の意識が強いと言うよりは、親の意識が強いのではないか。</p>
	<p>適正な学校規模を実現するための方策</p>	<p>・適正な学校規模を実現するための方策として、統廃合は少子化の影響を考えるとやむを得ないのではないかと、というのが主な意見でした。</p>
<p>2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方 (第2専門委員会)</p>	<p>学科・コース等の今後の方向性</p>	<p>・人の話を良く聞く事ができる人間や素直な人間を育てる事が今一番重要なのではないか。                      ・専門高校については、青森県らしい、青森県政の施策的な事も考慮して、特色のある学科を設ける方向などを今から考えてはどうか。例えば、青森県ではどのような農業を目指して、そのための勉強をするような学科を設置してはどうか。                      ・学科・コース等については、既設の学科・コース等について再検討し、学科の細分化にはあまり賛成できないので、基礎・基本をしっかり身に付けさせるような学科が必要。そのためには、専門高校の学科の場合は、シンプルでスタンダードな学科がいい。また、これからは基本になるのはパソコンなので、しっかりできるような人間を企業は求めている。                      ・普通科の全日制単位制高校の設置に関しては、今ある学校と、設置が決まっている学校の実績を見て判断するべきである。                      ・括り募集については賛成の意見が多かった。やはり中学生に入ってすぐの段階ではまだ将来の展望もないので、1年間身近に見てから考えるという点で括り募集が良いのではという意見。</p>

上北・三八地区部会

検討課題	具体的な検討項目	意見報告
<p>1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方 (第1専門委員会)</p>	<p>1学年当たりの適正な学級数</p>	<p>・市部や町村部の高校の学級数については概ね了承。しかし、八戸市内は私立高校の設置数が他の地域よりも多く、私立高校の学校評価も高く、志望者数も多いという事から、地域の保護者達、あるいは、よその人達も県立高校と同じように考えているのではないかと。だから、ほかの地区と全く同じ割合でやられても困るという話が出た。 ・町村部の普通科は3～4学級だが最低2学級については絶対賛成。特に上北地区はあまり交通事情が良くないので、なんとか離れた場所でも残して欲しい。</p>
	<p>普通科と職業学科と総合学科の目指す役割</p>	<p>・普通科については、ほとんどの生徒が上級の学校を目指して頑張っているので減らす必要はない。 ・職業学科について、一般企業では、今専門的な技術とか細かい事は必要とはしていないので、そういう意味では基礎・基本の学習、挨拶、精神面を育てる事が必要になっている。 ・近年は進学者が非常に増えているので、進学指導の教科もこれからは絶対に必要。 ・中学校の先生から出た意見で、職業学科の学科名がしゃれた学科名が多いが、そういった学科名は親も生徒もあまり意味が分からないし、中学校の進路の先生は説明できるが、ほとんどの先生は分かっていないので、そういう学科名は必要ないのではないかと。保護者や中学生に分かりやすい学科名にして、ここに行くとかこういう勉強をして、こういう方向があると分かった方が、学校としてはいいのではないかと。 ・職業学科の多くの生徒は、普通高校の生徒とは違って、色々なボランティア活動や地域の催し物などにも非常に積極的に参加したり、人間的に基礎が十分養われているので、職業学科を減らすのはいいが、なくさない。 ・総合学科については、中学校の立場から見ると、進学校は受験に向いているが、それ意外の学校に行った生徒には総合学科は必要。職場体験を通じて職業観を身に付けさせ、継続して指導が出来るので総合学科あった方がいい。 ・総合学科は、予算がかかることや実績がまだはっきりと見えない状態なので、当地区への導入については慎重な意見で、すぐにという事は考えられない。 ・全体的視野での普通科、職業学科、総合学科の地域毎の募集割合について、地域毎の違いがあってもいいのではないかと。大学進学率を高めるための普通科増ではなくて、市部と町村部でバランスのとれた募集割合を考えてほしい。</p>
	<p>適正な学校規模を実現するための方策</p>	<p>・適正な学校規模を実現するための方策について、生徒数の減少が明らかなので統廃合はやむをえない。しかしながら、地域住民の理解を得られるような基準を設ける必要である。 例えば、高校長協会の意見にあるように、数年間の入学者選抜の志願倍率や、募集定員に対する充足率や、地元出身者の在籍率等を参考にするという意見があるが、そういった基準を設けないと地域の人やその学校の関係者は納得しないだろう。 ・地域毎の学校配置については、地域の事情による柔軟な学校配置があってもいいのではないかと。ぜひそうして欲しいというのが全員の意見。</p>
<p>2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方 (第2専門委員会)</p>	<p>学科・コース等の今後の方向性</p>	<p>・基礎・基本をきちんと身に付けさせる事が今は求められているのではないかと。 ・集団の中で自己の役割を自覚し共同で物事を解決して行く、そういった社会人として色々な場面で活躍できるような識見が求められているように思う。校長協会の意見にもありましたが、やはりそういう高校、高校生であって欲しい。 ・ニートやアルバイトでも生活が出来る現代社会ですが、職業観を植え付ける必要がある。そのためには企業の話をよく聞く必要があり、先生も生徒も勉強する必要がある。 ・新設高校については、県の財政難の時期に当地区では考えなくてもいいのではないかと。</p>